

<概要版>

路上バス停設置に係る社会実験 自動車利用者 WEB アンケート調査結果

【調査概要】

社会実験期間中に路上バス停設置区間（東大通～流作場五差路間）を、自動車を運転して通過した人に対して、走行時の安全性や快適性に関する事項についてのアンケート調査を実施した。また、社会実験期間中に路上バス停設置区間を通らなかった人に対しても調査を実施した。

【調査日】

調査日	平成 28 年 11 月 15 日（火）～平成 28 年 11 月 21 日（月）
-----	---

【調査方法】

WEB アンケートサービスを使用。

【回答期限】

平成 28 年 11 月 21 日（月）※実験終了後 1 週間後

【調査対象者】

- ・ 登録者のうち、回答希望、居住地および自動車利用の有無で対象者とする。
- ・ 期間内における実験区間の通行の有無により、「路上バス停区間通過者」と「非通過者」に仕分け。

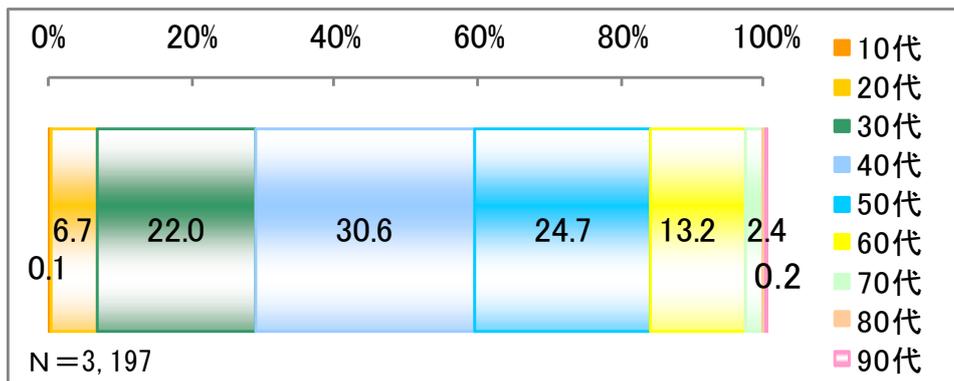
【回答数】

		回答数	%
回答数		3,197	100.0
内 訳	路上バス停区間通過者	488	15.3
	路上バス停区間非通過者	2,709	84.7

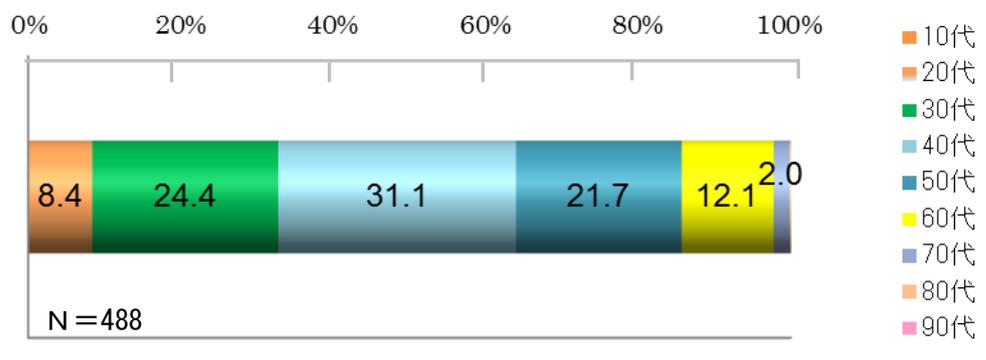
(1) 回答者の年齢層について

40歳代が最も多く30.6%、次いで50歳代が約24.7%、30歳代が22.0%、60歳代は13.2%、70歳代以上は3%未満であった。

【回答者全体】 N=3,197

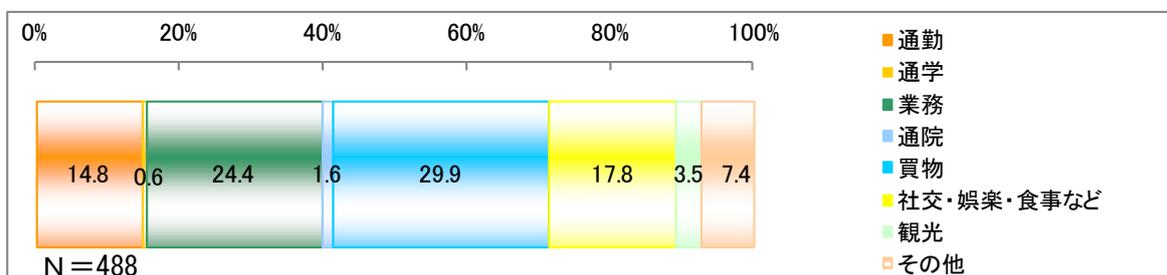


【全体の内、路上バス停区間通過者の年齢層】



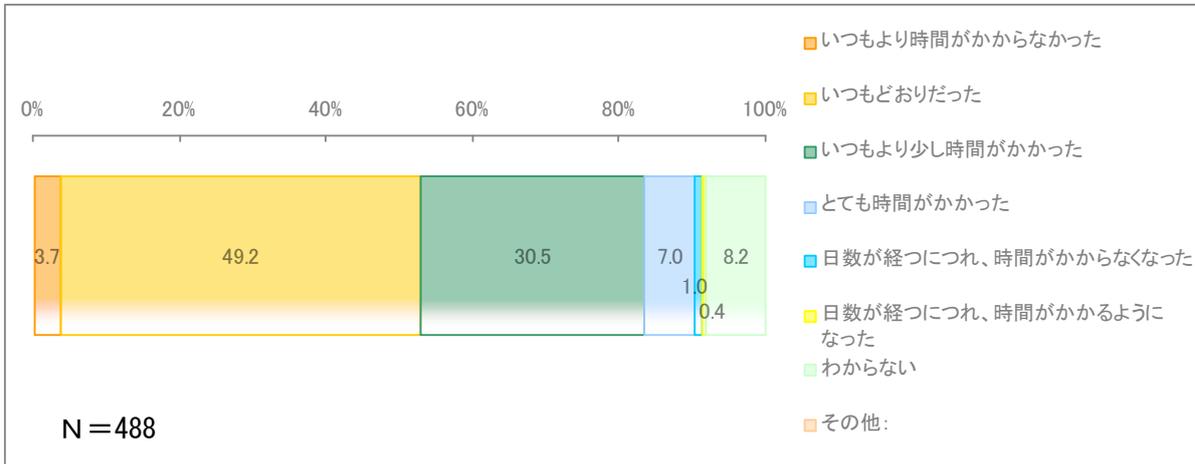
(2) 通行した方の主な目的について (路上バス停区間通過者のみ)

路上バス停区間を期間中に通行した人の目的は、「買物」が最も多く29.9%であり、次いで「業務」24.4%、「社交・娯楽・食事など」が17.8%、「通勤」14.8%であった。



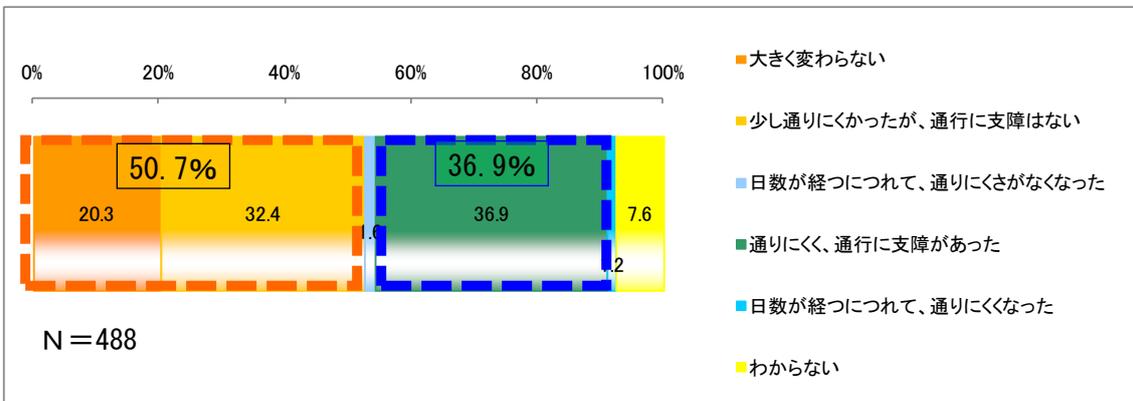
(3) 通行に要した時間について（路上バス停区間通過者のみ）

路上バス停区間を期間中に通行した人のうち、通行に要した時間が「いつもどおりだった」が49.2%、次いで「いつもより少し時間がかかった」30.5%、「とても時間がかかった」は7.0%であった。



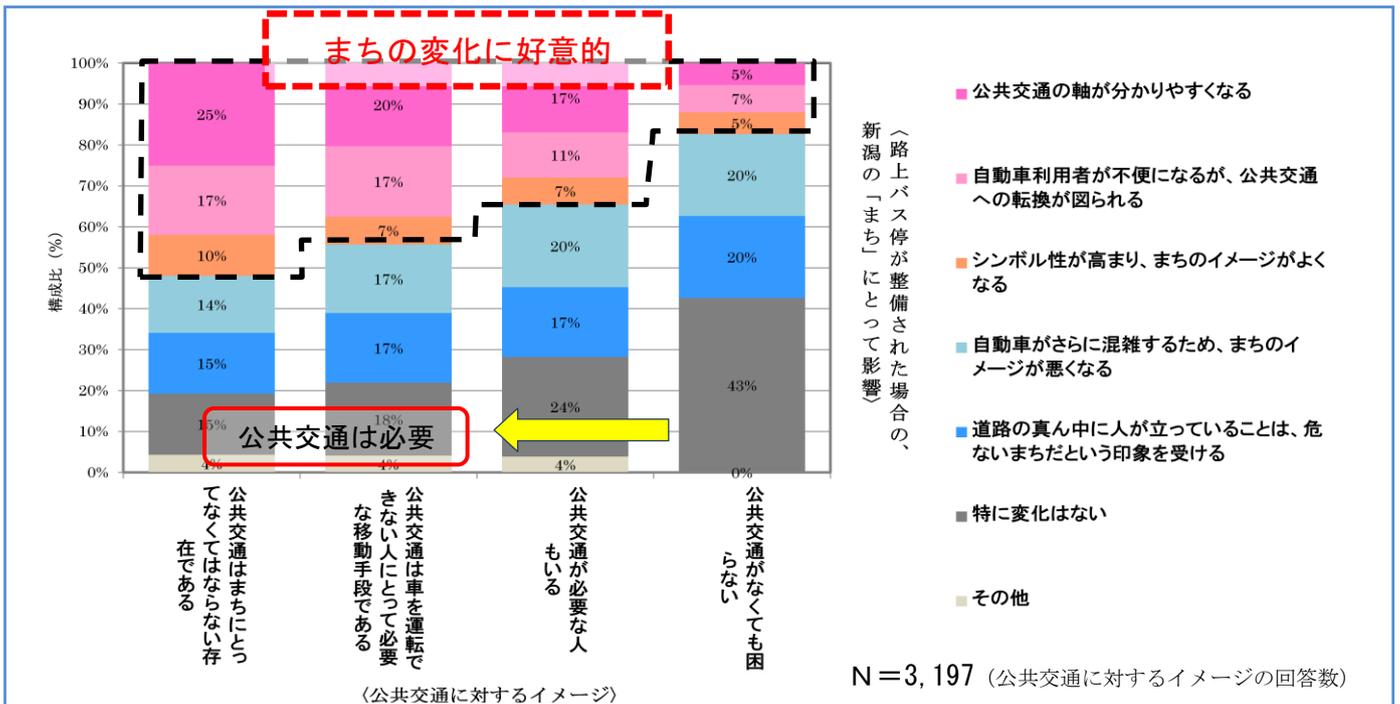
(4) 実験区間を通行した印象について（路上バス停区間通過者のみ）

実験区間を通行した印象について「大きく変わらない20.3%」「通行に支障はない32.4%」と感じた方は合わせて50.7%、「支障があった」と感じた人は36.9%であった。



(5) 【クロス集計】公共交通に対する意識と、路上バス停が整備された場合の「まち」への影響

公共交通は必要と捉えている人ほど、「まち」の変化に対して好意的に考えている傾向があった。



○アンケート結果の活用について

本アンケートでいただいたご意見は、利用者が安心してバスを待てる環境づくりに検討に反映していきます。

また、まちづくりと一体となった持続可能な公共交通体系の構築を目指していくことについてもPRを図っていきます。